

## 令和6年度 卒業式 学長告辞

とりわけ寒さが厳しかった冬もようやく終わり、キャンパスのあちらこちらで、春本番を思わせる生命の営みを感じることができるようになり、新たなステージに期待感を抱く季節が到来しています。

本日、晴れて、卒業ならびに修了の日を迎えた皆さん、卒業・修了を心からお祝い申し上げます。今日まで皆さんを支えてこられたご家族の皆様も喜んでおられると思います。

皆さんの新たな門出にあたり、愛知教育大学を代表して、祝福の言葉を述べさせていただきます。

学部を卒業する多くの皆さんが、入学した4年前は、コロナ禍2年目であり、思い描いていた大学生活とは違う様相であったと思います。皆さんは、様々な工夫をしたり助け合ったりして各種実習や教員採用試験などの就職活動を乗り切ってくれたことと推察します。その過程で、自分の努力だけでなく周りの方々の支えがあったと思います。また、皆さんの周りには、多様な環境におかれた人々がいます。このような状況を常に心のどこかに留め、自分ができること、配慮しなければならないことを考え、夢に向かって邁進してほしいと思います。

教員養成課程は、皆さんが入学した令和3年度より、課程の改組を行いました。14専修からなる「義務教育専攻」と5専修からなる「高等学校教育専攻」を新たに立ち上げ、幼児教育専攻、特別支援教育専攻、養護教育専攻の5専攻からなる「学校教員養成課程」としました。改組後、皆さんが最初の卒業生になります。教員就職者数は4年連続全国1位、500人越えは本学だけです。教員就職率も私が学長に就任した5年前と比べると10%ほど上昇しています。皆さんの頑張りだと思います。

平成29年度に設置した「教育支援専門職養成課程」は、皆さんが5回目の卒業生となります。充実した半面、課題も明らかになってきていますので、改善を図っていきたいと思います。学生参加のFD・SD集会でも、施設面や学校教員養成課程の学生との交流の機会の少なさも指摘されています。せっかく両課程が一つの大学にあるのですから、学生時代から「チーム学校」体制が構築できるような仕組みを検討していきます。

教職大学院及び修士課程臨床心理学コース及び日本型教育グローバルコースを修了される皆さんは、本学の卒業生は割と少なく、様々な大学を卒業された方々や附属学校の教員を含む現職教員の皆様、留学生の方々が、新たな風を吹き込み切磋琢磨できたと思います。今後も指導いただいた先生方とのつながりを大切に、機会があればぜひ博士の学位の取得も考えてください。

博士課程を修了され、博士の学位を取得された2人は、仕事をもちながら研究を深められたことに敬意を表すると共に、今後それぞれの研究分野において中核になって活躍されることを期待しています。

特別専攻科を修了される皆さんは、特別支援教育に貢献したいという思いで入学し、研鑽を重ねられ修了されたことと思います。学校現場では特別支援教育の担い手のニーズは、一層高まっています。活躍を期待しています。

ひと月ほど前の令和7年2月21日に、中央教育審議会は、「我が国の『知の総和』向上の未来像～高等教育システムの再構築～」と題した答申を発表しました。直面する課題の中に、大学進学者数の激減を挙げています。学部の皆さんが入学したころは約63万人でしたが、2040年に46万人になるというのです。約27%減となります。4分の1以上減ってしまう訳です。そこで、タイトルある「知の総和」という概念を設定しています。

「知の総和」とは、「数」×（かける）「能力」としています。「数」とは人数です。これが激減し、「知の総和」を保つにはどうすればよいでしょうか。もう一つの変数である「能力」を高める必要があるとしています。学生個々の能力です。目指す未来像を「一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさ（well-being）の実現を核とした持続可能な活力のある社会」、育成する人材像を「持続可能な活力のある社会の担い手や創り手として、真に人が果たすべきことを果たせる力を備え、人々と協働しながら、課題を発見し解決に導く、学び続ける人材」としています。皆さんは、学部課程や大学院課程を修了した訳ですので、この人材像に近づいていると思いますが、今後も研鑽し持続可能な活力ある社会の担い手・創り手としての活躍を期待しています。

本学は昨年度、前身である1873年創立の「愛知県養成学校」から数え創基150周年を迎えました。記念式典を令和5年11月19日（日）に講堂にて開催しました。私は、式典の挨拶の結びで「多様な立場の人々と連携・協働する新たな体験活動をカリキュラムに位置付けることで、多様な教師集団をコーディネートできる力を有した教員、・・・（中略）・・・今後も大学と附属、地域社会の皆様と協働し、『創基150周年を迎え、新しい形の教員養成に挑戦し教職の魅力高め、未来につなぐ！』を新たなコンセプトとして、一丸となって使命を果たしていきたいと考えています」と述べました。そのために地域と共に教員、教育支援専門職を養成する新科目「地域協働教育体験活動」を令和5年度に導入しました。この科目は、学内外で多様な方々と連携・協働して実施する教育体験をもとにして学んだことを、子どもにどう還元できるかを探究的に追究し、教職及び教育を支える専門職等に必要となる資質や能力について多角的に考えることを目的としています。昨年度は、レクリエーション協会、地域の和菓子屋、歴史博物館などと連携していくつかの授業を実施し、手ごたえを感じました。今年度は、地域の学校や自治体、スポーツクラブチーム、電気・エネルギー企業、国際交流協会、放課後児童クラブやNPO法人などとの連携を質量とも一層充実させていま

す。皆さんの中にも試行の段階で、この科目を受けた方もいると思います。まさに中央教育審議会が述べた一人一人の能力を高めるための取組です。

さて、どんな教師等に子どもたちは憧れるのでしょうか。私は、「人間力」をもった教師等だと思います。

先にも述べたように、明治の先人たちは、教育を新しい国づくりの礎と考え、近代的な学校制度を整えました。世界は加速度的に変化し続けていますが、国づくりの根幹は、今も変わらず人づくりです。他方、新しい時代を切り拓くには、高邁な理想を共に抱く仲間、柔軟で斬新なアイデア、協働してやり遂げる強い意志が必要です。また、これからは、知識を得ることより、活用力を身に付けることが重要な社会になります。そのためには、探究型の学習が必要となり、小中学校の「総合的な学習の時間」や高等学校の「総合的な探究の時間」が核になっていくと思います。私は、生活科や総合的学習を専門としており、これまで参観した多くの授業を通して、多くの教師に出会ってきました。優れた授業を展開された先生方は、人間力に溢れた方々でした。この「人間力」を培うには、多様な体験をし、多様な方々と触れ合うことが必要であると考えます。今後は、このような機会を自ら求め、「人間力」を磨いてください。期待しています。

最後に、4月から教職に就く皆さんは、一人一人の子どものよさに目を向けることを心がけてください。今回は別の道に進む皆さんもほかの職業等での成長を、ぜひ将来、学校教育に活かしてください。教職を支える専門職に就く人は、教員と協働して未来の教育を担ってほしいと思います。

皆さんは、卒業・修了されると私と同様、本学の同窓生となります。どうかここを巣立った後も、本学ならびに同窓会の活動も支えてください。本学での学びを礎に、健康に留意され、教育の未来を共創していく皆さんの可能性に期待して、卒業・修了にあたっての告辞いたします。

令和7年3月24日  
愛知教育大学長  
野田 敦敬

